滝瀬（たきせ）遺跡（本発掘調査B）

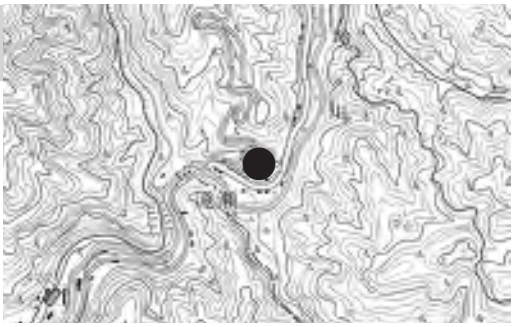
所　在　地　北設楽郡設楽町八橋タキセ
（北緯35度07分12秒　東経137度34分52秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　令和4年11月～令和5年1月

調査面積　1,395㎡

担　当　者　永井宏幸・鈴木恵介



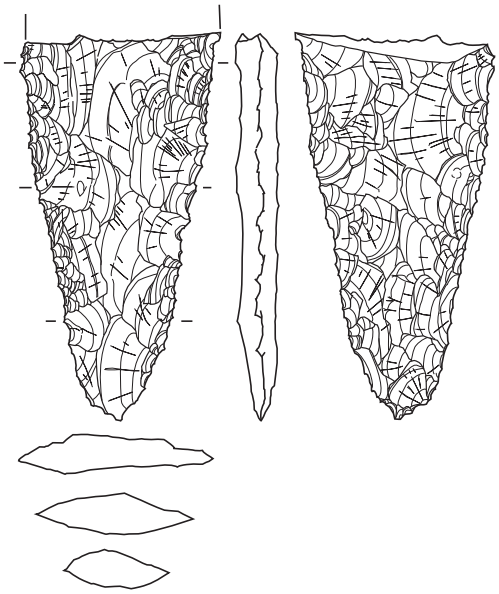
調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　発掘調査は設楽ダムに伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所から愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。

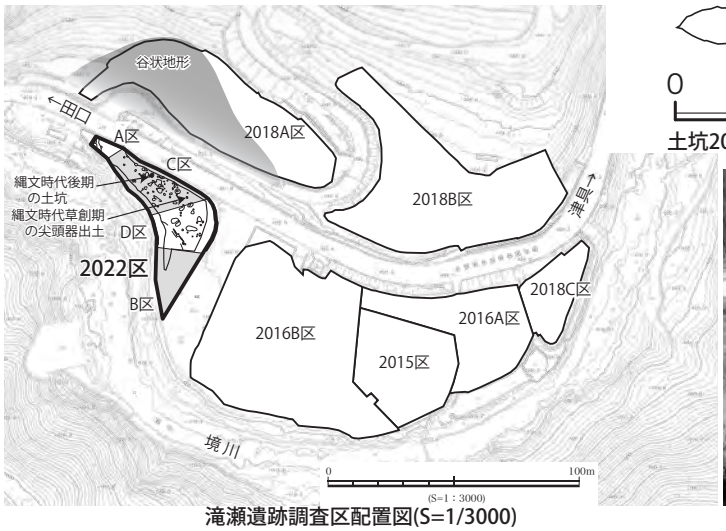
立地と環境　滝瀬遺跡は境川右岸の河岸段丘から丘陵斜面に立地する。本調査区は遺跡の中で最も境川の下流部分に位置する。現地表面の標高は421mで、調査で検出された基盤層の標高は419.5m～417mである。本調査区の基盤層は、近現代の耕地造成に伴って削平されたか、北側上位斜面にある2018A区で検出された谷状地形の影響を受けたと考えられる。

調査の概要　調査は、排土処理の都合上、A～Dの４区に分けて実施した(下図)。A・D区は基盤層が緩やかに傾斜しており、C区北壁沿いの平坦面付近では縄文時代後期の土坑１基(2016SK)、別の土坑(時期不明・2062SK)から縄文時代草創期の尖頭器（基部）を検出した(右図)。これらはC区中でも標高の高い位置で検出されている。同じC区内でも南半部は川に向かって傾斜が強くなり遺構は減少する。他のA・B・D区はC区北半部よりも標高が下り、遺構の検出数は減少する。今年度の調査区の中でも遺構の残存状況の差が明確にうかがえる結果となった。

（鈴木恵介）



土坑2062SK出土尖頭器(実測・川添　S=1/2)



滝瀬遺跡調査区配置図(S=1/3000)

滝瀬遺跡全景（2022区は中央左下）